みらいだより

令和４年５月２日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森みらい保育園

園長　中川宏美

入園、進級して１か月が過ぎ、子どもたちも新しい生活に慣れてきました。子どもたちの表情はやわらぎ、笑顔がみられるようになりました。

緑が美しい五月、ここちよい風、一年中で一番いい季節です。外に出て土や草の感触を十分に楽しみながら、全身を使った遊びを積極的に取り入れていきたいと思います。

いっぽう、新しい環境で気づかないうちにたまった疲れに気づき始めるころでもあります。健康には十分に留意していただくようお願いします。子どもたちの体調・ストレスなどご心配なことがありましたらいつでもご相談ください。

5月行事予定

月	日	曜	行　事　予　定
5	7	土	保護者交流会(たけのこ)
	10	火	内科健診
	17	火	身体測定(0･1･5歳児)
	18	水	身体測定(2･3･4 歳児)
	28	土	･お弁当の日 ･保護者交流会(りす)

･サツマイモの苗植え
･6/22　歯科検診

※変更の場合あり

交通安全教室(大芝交通公園)　4/22・4/26

「手をあげる。右みて左みて右をみる。右をみながら渡る。左をみながら渡る」手を挙げて、自信を持って横断歩道を渡ります。日常散歩に出かけている経験は、十分に発揮されていました。

交通指導員さんから「安心して、小学校に行けるね」と太鼓判を押してもらいました。

4/16　西区の保育園に通う５歳児の死亡事故が起きました。本園でも職員一同、事故の経緯を確認し、子どもの命を重く受け止めるとともに、安全面について再確認しました。保護者のみなさんにも、子どもの安全について、ご協力をお願いします。

①人数確認を確実に行うため、欠席・遅刻の連絡は、午前９時までの連絡をお願いします。

②西門からの出入りの際、必ず２か所の鍵の施錠をお願いします。

③「鍵の開閉は大人がするもの」とこどもたちに伝え、必ず大人が開閉してください。

園で目指す子どもの姿
「子どもの主体性を尊重し、自分で考える子どもを育む」

子どもは「小さくても一人の人として尊敬される存在」「自分の思い･意志を持った存在」であるととらえ、乳児期から、必ず子どもに伝えてから抱き上げる、鼻水を拭きます。また、着替えの場面で好きな服を選んで着たり、自分でお気に入りの遊びを選択できるように援助をしていきます。「泣く」「すねる」などの表現にも、「悲しいね」「どうしたかった」と受け止め、子どもの思いを共感し、言語化を積み重ねて子どもを尊重した関りを大切にしています。このような、子どもを尊重した関りの中で子どもは、自分の思いを確認し、自分は思いを聞いてもえる存在だと自信を持ち、自分の思いを伝える力を高めていきます。

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「何を感じ」「気付き」「理解できる」ようになる のか、「試す」「工夫する」「表現する」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。

どんぐり組(0 歳児)：「なにがあるのかな？」

保育室から、自分でずりばいで園庭に出てきます。園庭の様子を見まわし興味のあるものをみつけると、触って確かめます。

見て、感じて、試して、を繰り返し好奇心を持って、自然との関わりを体験しています。

たけのこ組(1 歳児)：「興味津々」

砂場で土の塊を、筒状のおもちゃに入れます。筒の中がいっぱいになると筒を引上げ砂を落とします。土の重さや、土の塊の感触を繰り返し試していました。遊びや生活の中で、「重い・軽い」「多い・少ない」数学的な体験をしています。

りす組（2 歳児）：「こうやってのぼるんよ～」

やってみたいけどうまく登れない中、「ここに足をかけて」「そうそう」「がんばれ」友だちの応援で最後まで登りきることができました。登れたことで繰り返し挑戦しています。「できた」経験がやる気と自信に繋がっています。

うさぎ組（3歳児）：「だいこんクッキング」

「フライパン、お母さんといっしょ」「これガスでしょ。うちのキッチンにもあるよ」「お母さんも包丁で野菜切ってるよ」家庭での知識を伝えてくれます。お料理を一緒に体験することで、「大根の葉っぱが美味しい」「おかわりちょうだい」意欲的に食べます。

そら組(4 歳児):「かっぱおやじの痕跡」

「かっぱおやじ」の絵本が大好きで、雨が降ると「たいへん、かっぱおやじが来ちゃう」「これ、もしかしてかっぱおやじの足跡？キャベツ食べた？」絵本の世界と現実の世界を想像力豊かに行ったり来たりしながら、それぞれの発見を楽しんでいます。

ひかり組(5 歳児)：「折り合い」

「勝手にとらんで」「じゃんけんして使おうや」「順番にしよう」周りにいた友だちも心配そうに見守ります。自分の思いや考えを言葉で伝えあいます。お互いに折り合いをつけながら話していくことが、小学校以降の学習や生活の基盤になります。